
主アイSS集

y s

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

主アイSS集

【Zコード】

Z5331Z

【作者名】

ys

【あらすじ】

ペルソナ3シリーズの主アイ好きがSSを書いてみました。連載という名の短編集。設定変更有。ネタバレ有。キャラ崩壊している可能性あり。文章が稚拙。こんなものでもいいと言つてくださる方は読んでいただけると嬉しいなと思います。できれば主アイ好きが増えるといいなんて思っています。主アイの恋愛もの（？）が中⼼。もしかしたら学園ものになっているかも。

お話を読む前に

お話を読む前に知つておいて欲しいことをまとめてみました。隨時
更新予定。

基本方針

- ・主アイメインの短編SUV集。よつて湊、アイギス以外にキャラが一切出てこないというのもあります。
- ・文章はかなり稚拙なので指導していただけると助かります。
- ・更新は遅めになると思われます。
- ・湊、アイギスは月光館に来る前から知り合いで、一人が4月に転校してからさらに仲が深まったという設定です。

登場人物・軽い紹介

有里湊

主人公。『どうでもいい』が口癖。携帯音楽プレーヤーは必須。伸ばした前髪が特徴。普段は冷静で感情を表に出そうとしない。アイギス好き。

アイギス

今回の設定では、4月から湊と知り合い。ロボットはあるが、性格と心は人間らしくなっている。湊第一主義。湊が思っている以上に、湊のことが好きなようである。

有里公子

湊の弟。荒垣命。兄貴と比べるとかなり明るい。みんなとすぐにはじめるところが長所。

伊織順平

湊のクラスメート。『テレッテ』が印象的なお調子者。いつも帽子をかぶっている。

岳羽ゆかり

湊のクラスメート。明るく勝気。ひそかに湊を狙う。

山岸風花

湊と同級生。バツクアップ担当。内向的だがひそかに湊を狙う第二号。

真田明彦

トレーニングと筋肉とプロテイン第一主義。結構熱い。

桐条美鶴

頭脳明晰な特別課外活動部の部長。お嬢様育ち。それゆえ一般人がやることについていけない時もある。

荒垣真次郎

明彦の親友。訳あって一時的に戦線離脱していた。腕っぷしあなり強い。見た目とは裏腹に料理は得意。公子に好かれている。

天田乾

部活中最年少の小学生。風花が気になる模様。

コロマル

虎狼丸ことコロマル。かつて主人を失ったが今では活動部の戦力の一員。義理堅い。

エリザベス

ベルベットルームの住人。テオドアの姉貴。

イゴール

ベルベットルームの主人。たぶん出番はない。

その他の登場キャラ

時折入れるかもしれない

ストーリー

大筋は本編と同じ。ただ違うのは、

- ・4月の時点でアイギス加入、かつ強化終了。つまり、一月以降のアイギスと同じ感じである。
- ・ゲーム中にはないイベントも入れていて（予定）。
- ・公子が湊の弟として登場。
- ・一部設定を変更。

その他

- ・順番はごちゃ混ぜになると思うので、前は春のお話だから次は夏になるとは限りません。1回目は春、次は冬、3回目は夏で4回目が春になることもあります。
- ・予告なく小説を改造する可能性があります。
- ・キャラが壊れている可能性があります。注意！
- ・ネタバレ前提なので注意。

以上のこと踏まえたうえで、読んでいただけると幸いです。

主アイユロ長鳴神社（前書き）

初めて書いたSS。季節が思いつきり外れていますが、ご了承を。

主アイユロ長鳴神社

4月は終わり、月はすでに5月初旬。モノレールでの一件は過ぎ
にもならず、解決。いつもと変わらない生活。

湊は部活がないので帰宅の路。アイギスはやるけどがあるといつ
て先に帰った。

湊は途中、定食屋わかつで、早めの夕食をすませる。まだ日は落
ちていなかつたので、長鳴神社に寄つてから帰ることにした。あと
少しすれば中間試験である。でも大型のシャドウを倒したといって
も試験は待つてくれない、無情。どうでもいいことだけれども。な
んて考えていたら長鳴神社の前まで来ていた。

誰もいないと思っていた神社の前に見覚えのある後姿を湊はみた。
アイギスである。隣には、彼女のカバンと紙袋らしいものが並
んでいた。お参りでもしているのだろうかと考え、声はあえてかけ
ず、そつと近づいてみた。5メートルくらいまで近づいてみても、
彼女の声は聞こえない。もう少し、もう少し、とゆっくりと歩を進め
る。4メートル、3メートル、2メートル、1メートル…

「…？」

気付かれてしまったようだ。アイギスは振り向いて身構えてくる。

「湊さん…」

湊であるとわかると警戒を解除し、安心したかのようにほほ笑む。
つられて湊も小さな笑いを見せる。

「ひどいですよ。」

「ごめんごめん。アイギスがそこに立つてたからなんのお願いして
いたのかななんて思つてね。」

「……。」

アイギスは顔をそむける。顔が赤らむ。靴の先で地面をいじつてい
る。やがて決心したかのように湊に向き直る。

「…笑わないでくださいね？」

「いいよ。」

「誰にも言わないでくださいね？」

「わかつてゐるつて。」

ためらいがちではあるが、アイギスの口からはこんな言葉が。

「……今度の中間考査で…赤点回避…いや、平均点以上を…」

全部言い終わらないうちに、湊は笑いそうになつたのでこらえるの
に必死になつてしまつた。『なるほどね。』なんて言葉も添えて。

「やっぱり笑つてゐるじゃ ないですか」

「だつて今日なんで先に帰るなんて言つたかわかつたような気がし
たからや」

片方の手をポケットからだす。

「問題集とか参考書買つてそんでもつてこの神社にお参りして助
けてもらおうと。」

そういうつて紙袋をとり、中を確認し始める。英文法書、単語集、国
語のワーク、数学の問題集、その他諸々…中には合格鉛筆なんても
のがある。受験でもないのにな、なんて湊がつぶやくと、

「補習があるのは嫌ですし、先生にも呼ばれたくないので」
とアイギスは反論する。確かにな…と湊は思う。

入院している時に定期テストとは違う学力テストがあつた。その
時にアイギスは 順平よりはましなほうだが かなりひど
い成績だつたようだ。赤点教科もあつたらしい。もちろん転校しよ
っぱらからこの成績はまずいといふことで先生にも呼び出しを食ら
つていた。しかもきつい補習というオマケつきで。

「天才にはわかりませんよ」「
とアイギスは拗ねてしまつた。

湊はおもむろに財布から5円硬貨を取出し、さい銭箱に投げた。

チーンと軽い音がすると、吸い込まれるように箱の中へと小さい硬貨が入っていく。田をつぶりお願いする湊の様子にアイギスは見入ってしまった。あまりに意外と思つたのか口から『あ…』としか言葉が出なかつた。湊は顔をあげアイギスのほうに顔を向ける。

「天才といわれる人だつてお願いするときはお願いするわ。」

まだぽかーつとしているアイギスに湊はさらに付け加える。

「でもね、お願ひだけではダメ。きちんと勉強しないとね。アイギスは少しムキになつたようだ、

「やつてるでありますよ。」

と口をとがらせる。口調も昔出会つたときのに戻る。

「やつてるところ見たことないな。」

「ううう…。」

図星のようで、アイギスは言葉を返せない。ほほ笑みを崩さず、湊は紙袋の一つを持つ。

「仕方ないよね。シャドウ討伐が忙しいんだからさ。しばらくはタルタロス探索はしないし、寮に戻つたら一緒に勉強しようか。」

「えつ、あつ、あ…。」

アイギスは突然のことに驚いたようだった。顔がトマトみたいに赤い。湊は空いた片手をアイギスの頬に添える。あたたかいなど感じた。

「その…湊さん。」

『何?』と問い合わせ代わりに顔を傾ける。

「テストが始まるまでの間、ずっと付きつきつで教えてもらえたるうれしいです。」

彼はアイギスの頬に添えていた手を彼女の左手に移す。

「もちろん。」

二人は手をつけないで神社を後にした。

この後、湊がアイギスにつきつきりで教えていくとゆかりからブー

イングがきたのだが、それはまた別のお話である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5331z/>

主アイSS集

2011年12月17日23時47分発行